

過年度卒業生向けアンケート結果



過年度卒業生のアンケート結果について(2026 年度実施報告)

教学 IR 委員会

卒業生のキャリアの状況等に関する調査を実施し、それを公表するとともに、調査結果を教育活動等の改善に反映することを目的とし、過年度卒業生へのアンケートを実施いたしましたので、ご報告いたします。

【2026 年度アンケート実施概要】

○アンケート回収期間 2026 年 7 月 15 日～8 月 18 日

○対象者 卒業後 3 年程度経過した 2022 年度(2022 年 9 月／2023 年 3 月)卒業生1,143名

○依頼／回答方法 ハガキにて依頼し、オンラインアンケートにて回答

○質問項目

- ①回答者属性（学部、卒業年、入学した入試制度）、②大学時代について(大学生活全般の満足度、本学の教育・研究の満足度、学生時代に身につけておけばよかったこと、卒業後の本学とのつながり等)、③これまでのキャリアパスに対する満足度、④自由記述 等

○回答者数 81 名 回答率 7.1%

学部名	依頼者数(名)	回答者数(名)	回答割合(%)
経済	217	16	7.4
現代社会	114	14	12.3
商	251	16	6.4
法	139	13	9.4
外国語	113	8	7.1
国際文化	124	7	5.7
スポーツ健康	125	4	3.2
リハビリテーション	60	3	5.0
合 計	1,143	81	7.1

【過年度卒業生アンケート結果 3 カ年比較】

○アンケート内容について

本報告では、2024 年度、2025 年度及び 2026 年度に実施したアンケート結果を比較し、3 カ年間の結果から見られる特徴及び傾向について整理した。

なお、各年度のアンケートは、それぞれ異なる卒業年度の卒業生を対象としているため、同一の卒業生を追跡した経年調査ではない。このため、以下の比較については、各年度の回答者集団における傾向の比較として捉える必要がある。

1. アンケート実施概要(3 カ年)

アンケート実施年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
対象卒業生(年度)	2020	2021	2022
対象者数(名)	1,190	1,150	1,143
回答者数(名)	86	81	81
回答率(%)	7.2	7.0	7.1

2. 主なアンケート結果比較

比較項目	2024	2025	2026	3カ年の傾向
教育・研究に「とても満足・満足」	59.3%	67.9%	72.8%	満足度は上昇傾向
大学生活全般に「とても満足・満足」	61.6%	61.8%	58.0%	満足度は6割前後
大学で得たもの「友人・先輩後輩との関係」	70.9%	67.9%	60.5%	低下傾向
大学で得たもの「授業で得た知識」	40.7%	48.1%	51.9%	上昇傾向
卒業後「同窓生との交流」	40.7%	35.8%	40.7%	4割前後で推移
卒業後「本学とのつながりはない」	32.6%	43.2%	46.9%	上昇傾向
初職が「第一志望・ほぼ志望どおり」	61.6%	59.3%	71.6%	2026年度に上昇
転職・離職経験あり	43.0%	35.0%	32.1%	低下傾向
キャリアパスに「とても満足・満足」	53.5%	53.1%	60.5%	2026年度に上昇
勤務先における本学・本学卒業生の評価 「非常に高い・高い」	25.6%	24.7%	24.7%	ほぼ横ばい
自己啓発時間「全くない」	27.9%	27.2%	23.5%	やや低下している

※複数回答の設問については、各選択肢を回答した者の割合を示す

3. アンケート結果から見える主なポイント(3カ年比較)

- ①本学の教育・研究に対する満足度は、3カ年を通じて上昇している(2026年度は72.8%)。
- ②大学生活全般の満足度は、3カ年を通じて概ね6割前後で推移している。
- ③大学で得たものとして「人的なつながり」が大きな割合を占めている一方、学修面の評価も高まっている。
- ④「主体性」等の実践的能力は、3カ年を通じて卒業後に必要性を感じる能力として挙げられている。
- ⑤卒業後に本学との「つながりはない」とする割合が増加している(32.6%から46.9%へ上昇)。
- ⑥本学がアピールすべき「強み」として、「立地の良さ」が継続して評価されている。
- ⑦初職については、2026年度に肯定的な回答が増加している。
- ⑧転職・離職経験者の割合は低下傾向にある。
- ⑨キャリアパスに対する満足度は、2026年度に上昇している。
- ⑩勤務先における本学・本学卒業生の評価は大きく変化していない。
- ⑪自己啓発の時間を「全く持てていない」卒業生の割合は、やや低下している。

①本学の教育・研究に対する満足度は、3カ年を通じて上昇している(2026年度は72.8%)。
・卒業時における本学の教育・研究について、「とても満足している」「満足している」と回答した割合は、2024年度59.3%、2025年度67.9%、2026年度72.8%となった。 ・2024年度から2025年度にかけて8.6ポイント、2025年度から2026年度にかけて4.9ポイント上昇しており、3カ年では13.5ポイントの上昇となった。
②大学生活全般の満足度は、3カ年を通じて概ね6割前後で推移している。
・大学生活全般について「とても満足している」「満足している」と回答した割合は、2024年度61.6%、2025年度61.8%、2026年度58.0%であった。 ・2024年度と2025年度はほぼ同水準であり、2026年度はやや低下したものの、3カ年を通じて概ね6割前後で推移している。 ・教育・研究に対する満足度が上昇している一方で、大学生活全般の満足度については同様の上昇傾向とはなっていない。このことから、教育・研究以外の学生生活を構成する要素についても継続して状況を把握することが必要と考えられる。

③大学で得たものとして「人的なつながり」が大きな割合を占めている一方、学修面の評価も高まっている。 ・大学で得たかけがえのないものとして「友人・先輩後輩との関係」を挙げた割合は、2024 年度 70.9%、2025 年度 67.9%、2026 年度 60.5%であり、低下傾向にはあるものの、3 カ年を通じて高い割合を占めている。 ・一方、「授業で得た知識」は、2024 年度 40.7%、2025 年度 48.1%、2026 年度 51.9%と上昇している。 ・卒業生にとって、大学時代の人的なつながりが大きな価値を持っていることに加え、授業等を通じて得た知識についても、卒業後にその価値が認識されていることがうかがえる。
④「主体性」等の実践的能力は、3 カ年を通じて卒業後に必要性を感じる能力として挙げられている。 ・大学時代にもっと身につけておけばよかったと思う能力として、2024 年度は「主体性」「実行力」等が挙げられ、2025 年度も「主体性」「計画力」が上位となっている。2026 年度についても、「主体性」が 44.4%で最も高く、次いで「ストレスコントロール力」29.6%、「実行力」28.4%、「計画力」28.4%となった。 ・特に「主体性」は複数年度にわたって上位に挙げられており、卒業後に社会人として働く中で、自ら考え行動する力の必要性を認識する卒業生が多いものと考えられる。 ・今後の教育活動においては、専門知識の修得に加え、主体性、実行力、計画力、ストレスコントロール力等の実践的な能力を育成する機会をさらに充実させることが重要と考えられる。
⑤卒業後に本学との「つながりはない」とする割合が増加している(32.6%から 46.9%へ上昇)。 ・卒業後の本学とのつながりについて、「同窓生との交流」と回答した割合は、2024 年度 40.7%、2025 年度 35.8%、2026 年度 40.7%であり、3 カ年を通じて一定の割合を占めている。 ・一方、「つながりはない」と回答した割合は、2024 年度 32.6%、2025 年度 43.2%、2026 年度 46.9%となり、2 年連続で上昇している。2024 年度から 2026 年度までの 2 年間で 14.3 ポイント上昇しており、今回の 3 カ年比較において注視すべき変化の一つである。 ・これらの結果から、卒業生同士の交流は一定程度維持されている一方で、卒業後に大学との接点を持たない卒業生が増加していることがうかがえる。 ・同窓会活動、ホームカミングデー、卒業生向け情報発信、卒業生が大学の教育・研究や在学生と関わる機会等、卒業後も大学とのつながりを維持できる取組について検討することが考えられる。
⑥本学がアピールすべき「強み」として、「立地の良さ」が継続して評価されている。 ・2024 年度は、本学がもっとアピールすべき強みとして「立地の良さ」39.5%が最も高く、「就職率の高さ」29.1%、「国際交流」20.9%等が挙げられた。 ・2025 年度も「立地の良さ」「国際交流」「総合大学であること」等が上位となった。 ・2026 年度は「立地の良さ」40.7%が最も高く、「国際交流」32.1%、「就職率の高さ」32.1%が続いた。 ・3 カ年を通じて「立地の良さ」が安定して評価されており、「国際交流」「就職率の高さ」についても本学の強みとして認識されている。
⑦初職については、2026 年度に肯定的な回答が増加している。 ・初職が「第一志望」「ほぼ志望どおり」であった割合は、2024 年度 61.6%、2025 年度 59.3%であったが、2026 年度は、「第一志望」34.6%、「ほぼ志望どおり」37.0%で合計 71.6%となり、7 割を超えた。
⑧転職・離職経験者の割合は低下傾向にある。 ・転職・離職の経験がある卒業生は、2024 年度 43.0%、2025 年度 35%、2026 年度 32.1%となっており、3 カ年では低下傾向が見られる。2024 年度から 2026 年度では 10.9 ポイント低下している。
⑨キャリアパスに対する満足度は、2026 年度に上昇している。 ・これまでのキャリアパスについて「とても満足」「満足」と回答した割合は、2024 年度 53.5%、2025 年度 53.1%、2026 年度 60.5%であった。

・初職への納得度と併せてみると、卒業後のキャリアについては、2026 年度はコロナ禍の影響を脱してポジティブにとらえる卒業生が増加していることがうかがえる。
⑩勤務先における本学・本学卒業生の評価は大きく変化していない。
・勤務先における本学又は本学卒業生の評価について、「非常に高い」「高い」と回答した割合は、2024 年度 25.6%、2025 年度 24.7%、2026 年度 24.7%であり、3 カ年を通じてほぼ横ばいとなっている。 ・2026 年度では「どちらともいえない」が 70.4%を占めている。 ・卒業生自身の教育・研究への満足度が上昇している一方、勤務先から見た本学・本学卒業生への評価については大きな変化が見られていないことから、卒業生の活躍や本学の教育成果等を社会に発信していく取組についても検討する余地がある。
⑪自己啓発の時間を「全く持てていない」卒業生の割合は、やや低下している。
・勤務時間以外で自己啓発に費やす時間が「全くない」と回答した割合は、2024 年度 27.9%、2025 年度 25%程度、2026 年度 23.5%となっており、わずかながら低下傾向が見られる。 ・2025 年度には、前年に比べ「11 時間以上」「1～2 時間程度」と回答した卒業生の割合が上昇しており、卒業後も一定の学修時間を確保している卒業生が存在する。

4．総括

2024 年度から 2026 年度までの 3 カ年のアンケート結果を比較すると、本学の教育・研究に対する卒業生の満足度は継続的に上昇しており、2026 年度には 7 割を超える結果となった。また、大学時代に得たものとして人的なつながりが引き続き高く評価されているとともに、「授業で得た知識」を挙げる割合も上昇しており、本学における学修経験が卒業後に一定の価値を持って認識されていることがうかがえる。

一方、大学時代にもっと身につけておけばよかった能力として「主体性」が継続して上位に挙げられており、「実行力」「計画力」「ストレスコントロール力」等を含め、卒業後の社会生活を見据えた実践的な能力の育成について、引き続き教育活動の中で検討していくことが重要と考えられる。

卒業後のキャリアについては、初職への納得度や現在までのキャリアパスに対する満足度に比較的肯定的な結果が見られ、転職・離職経験者の割合についても 3 カ年では低下傾向が見られた。

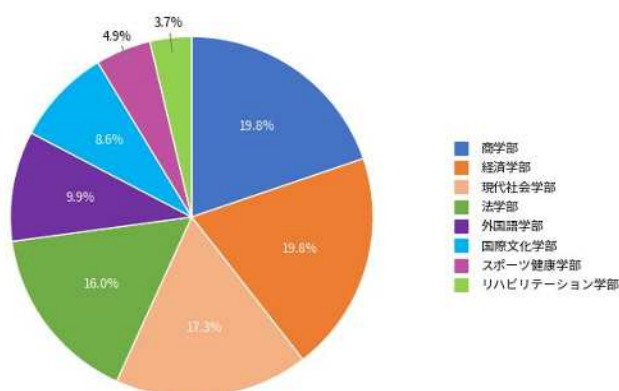
その一方で、卒業後に本学との「つながりはない」と回答した割合は、2024 年度 32.6%、2025 年度 43.2%、2026 年度 46.9%と上昇している。卒業生同士の交流は一定程度維持されているものの、大学そのものとの接点を持たない卒業生が増加していることから、同窓会活動、卒業生向け情報発信、大学行事への参加機会、リカレント教育等を通じ、卒業後も本学とのつながりを維持・形成できる取組について検討することが望まれる。

今後も同様の調査を継続し、単年度の結果のみではなく複数年度の推移を確認することで、本学の教育・学生支援及び卒業後のキャリア形成支援等の改善に活用していくことが重要である。

【2026 年度過年度卒業生アンケート】設問1～20 集計結果

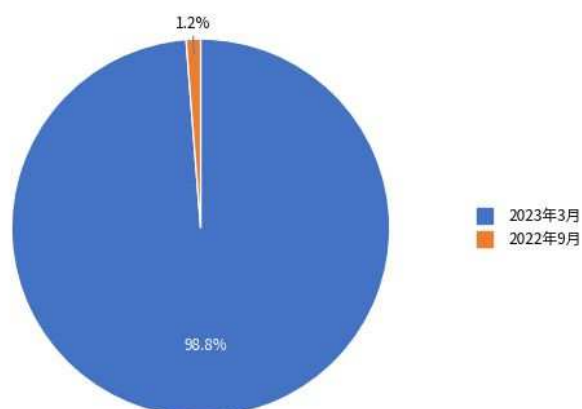
1. あなたが卒業した学部を選択してください。

(回答者数：81 名)



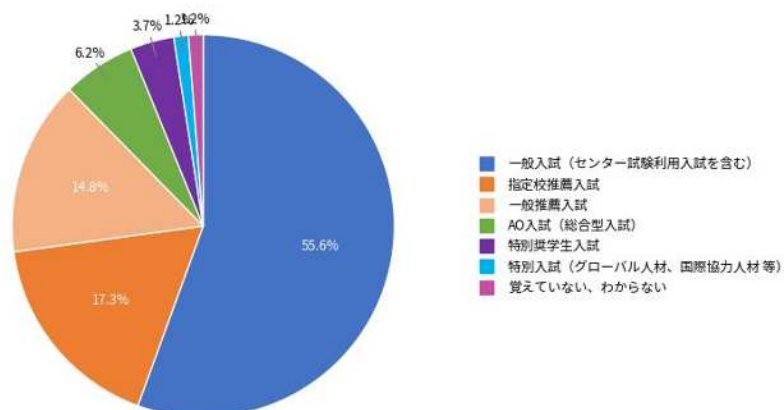
2. 学部を卒業した年月を選択してください。

(回答者数：81 名)



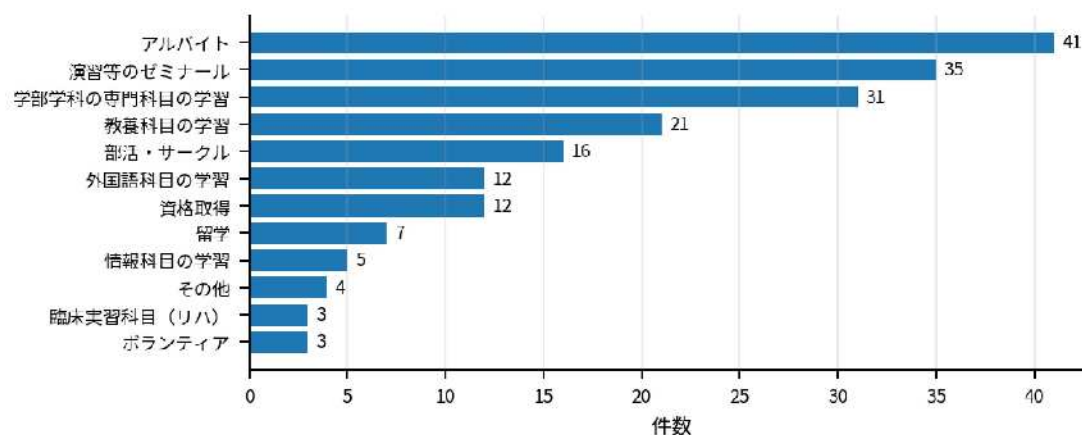
3. あなたが受験し合格した入学試験形態を選択してください。

(回答者数：81 名)



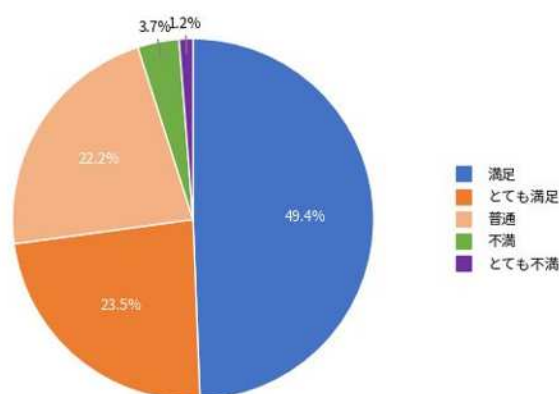
4. 大学の授業科目や課外活動への取組について伺います。熱心に取り組んだ項目をお答えください。【あてはまるものを3つまでお答えください。】

(回答者数：81名)



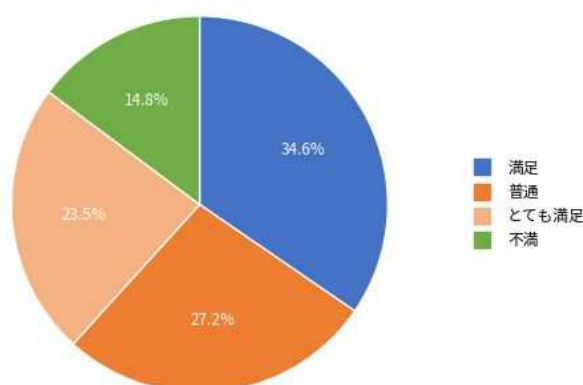
5. 卒業時において、本学の教育・研究に満足していましたか？

(回答者数：81名)



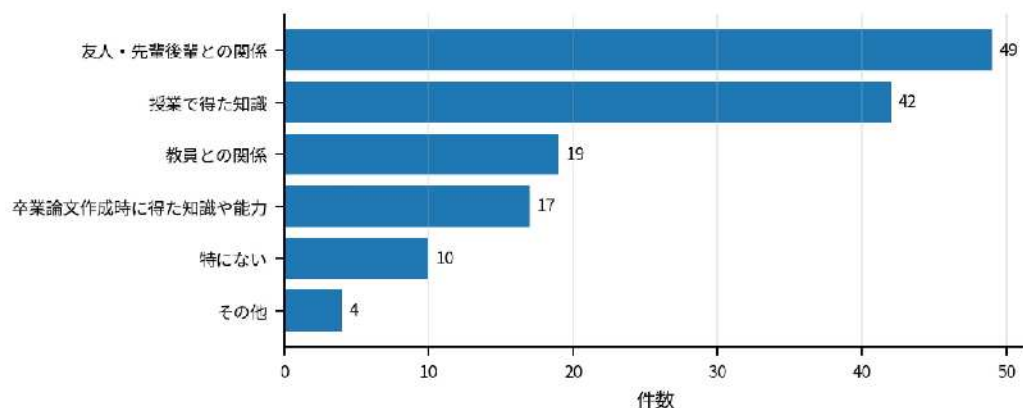
6. 卒業時において、大学時代の生活全般に満足していましたか？

(回答者数：81名)



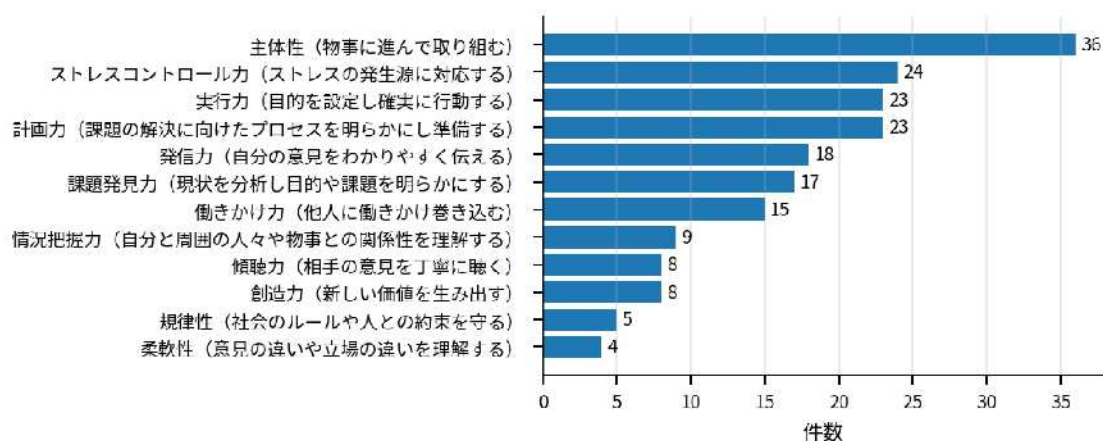
7. あなたが大学で得たかけがえのないものは何ですか。【あてはまるものをすべてお答えください。】

(回答者数：81名)



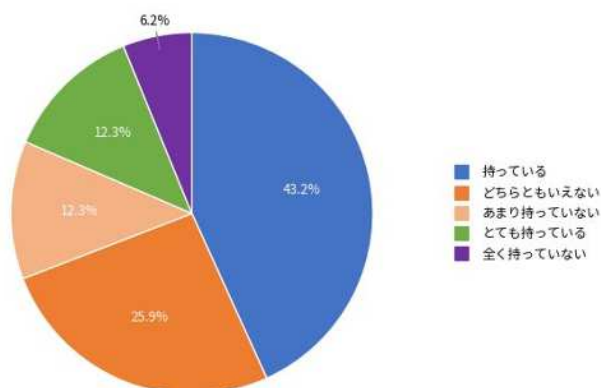
8. 大学生時代にもっと身につけておけばよかったと思う能力はどれですか。【あてはまるものを3つまでお答えください。】

(回答者数：81名)



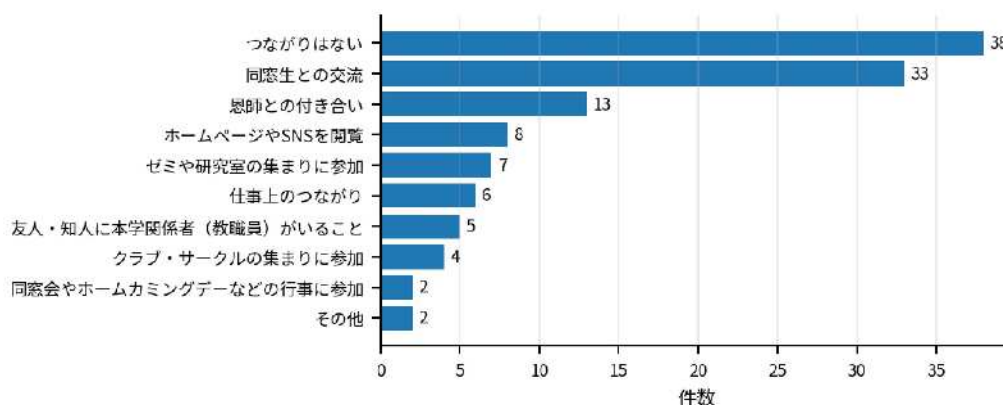
9. 現在、本学が出身大学であることに誇りを持っていますか。

(回答者数：81名)



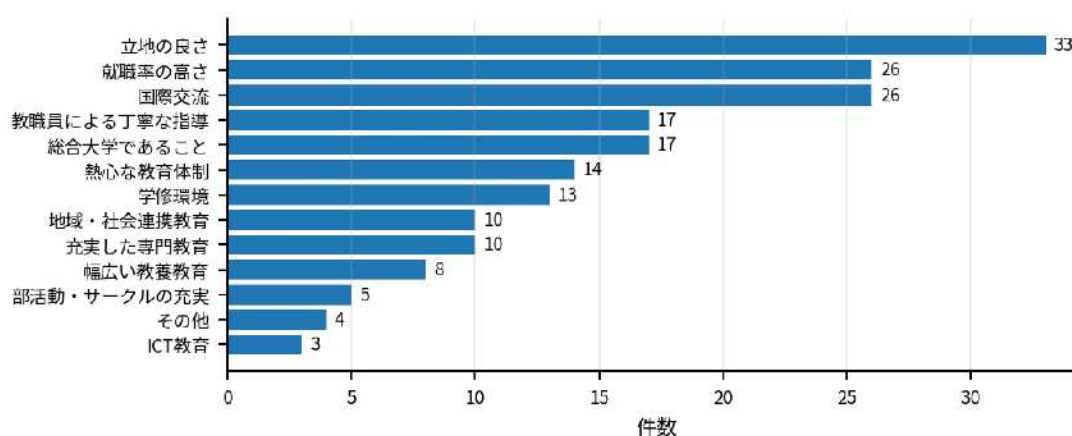
10. 卒業後、本学とどのようなつながりがありますか？【あてはまるものをすべてお答えください。】

(回答者数：81名)



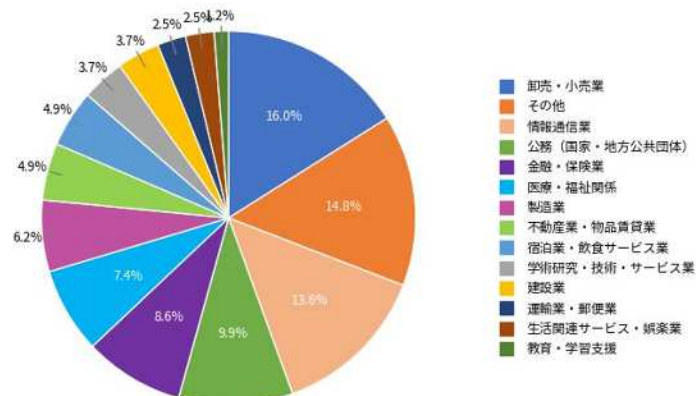
11. 本学がもっとアピールすべき「強み」は何だと思いますか。【あてはまるものを3つまでお答えください。】

(回答者数：81名)



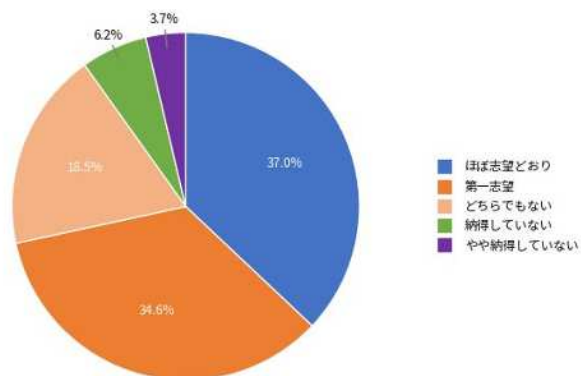
12. 初職の就職先の業種を選択してください。

(回答者数：81名)



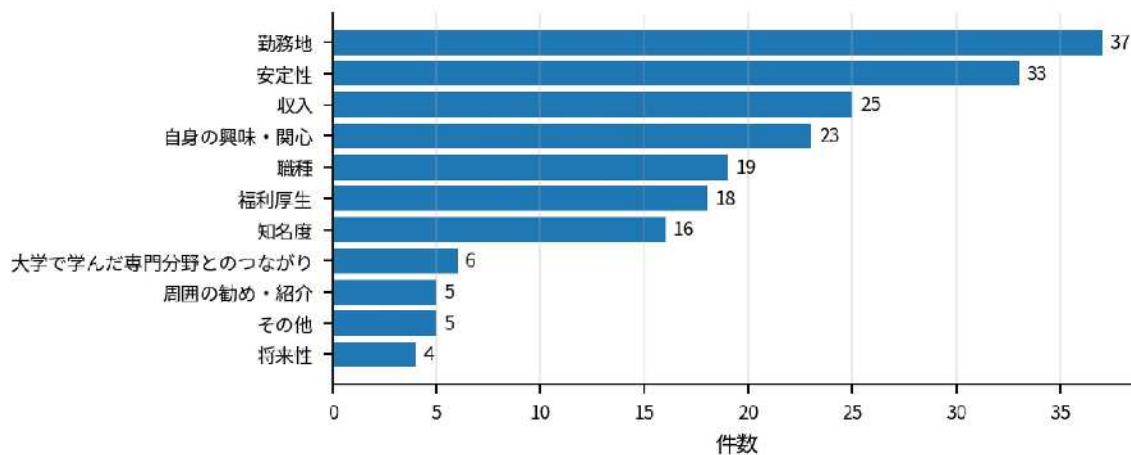
13. 初職の就職先は、志望どおりでしたか。

(回答者数：81 名)



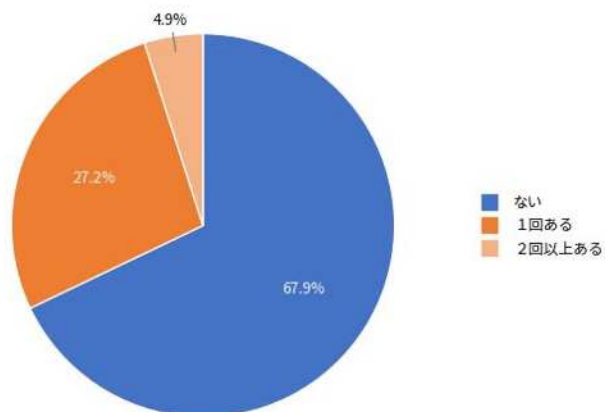
14. 初職の就職先に対し、何を重視しましたか。3つまでお答えください。

(回答者数：81 名)



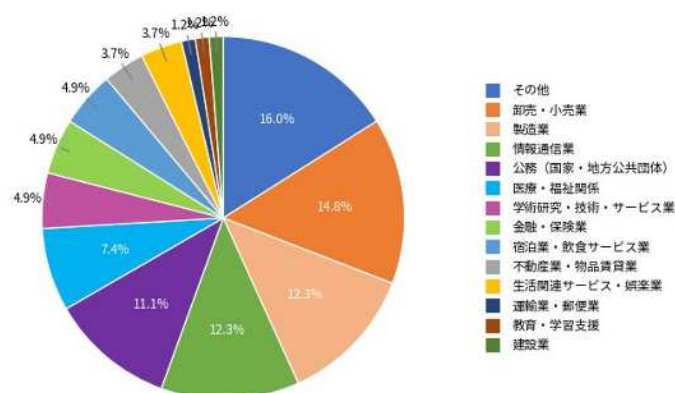
15. これまでに転職・離職の経験がありますか。

(回答者数：81 名)



16. 現職の勤務先の業種を選択してください。

(回答者数：81 名)



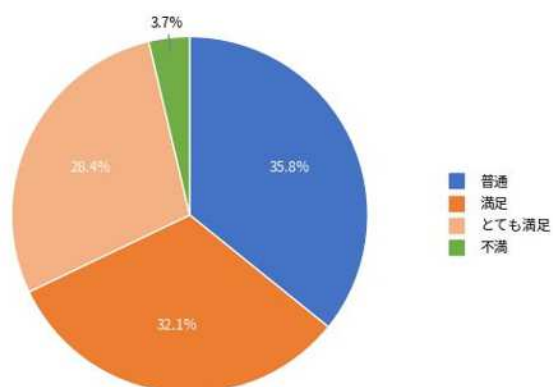
17. 現在の勤務先での職種について選択してください。

(回答者数：81 名)



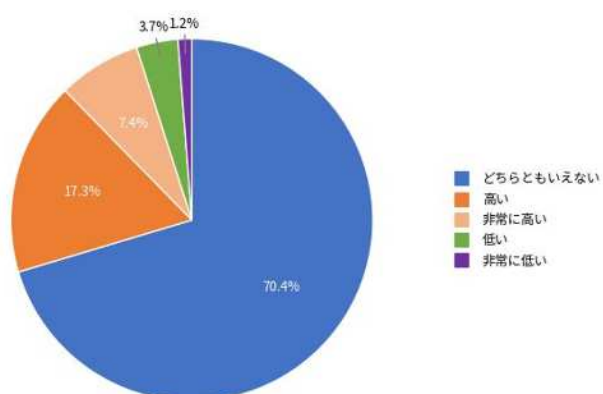
18. これまでのキャリアパス（現在の職に至るまでの道筋）に満足していますか。

(回答者数：81 名)



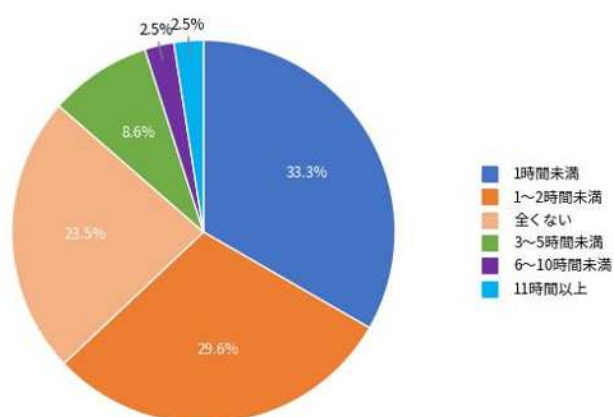
19. 勤務先における本学(あるいは本学卒業生)の評価はどのようなものですか。

(回答者数 : 81 名)



20. 勤務時間以外で、自らを向上させていくための学修時間(自己啓発に費やす時間)は、週にどれくらいありますか。

(回答者数 : 81 名)



【2026 年度過年度卒業生アンケート】 自由記述回答一覧

21. 本学の「教育環境」を更に改善するためにはどのような取組をしたらよいか、ご意見等ございましたらご入力ください。【300 文字以内】

(回答件数：6 件)

回答番号	ご意見等
5	専門性がより高まった授業を増やしても良いと思いました。社会学で得る知識は、考え方に大きく影響はしましたが、社会での実経験では発揮しにくい知識だと感じています。卒業しても「社会学部で良かった！」と思えるような授業を増やしてあげると、今後の就職率も更に高まると思いました。
16	以下 2 点 ・学部横断的な学習環境 卒業した学部の学びが現職に大いに生かされていると感じている反面、他の学部における専門知識が要求される場面もあることから、公開講座の領域を拡充し、他学部の学びに触れる機会があるとよい。 ・学部横断的な学生交流の場 学生同士が、学んだこと、将来のキャリアパスとそれに向けて努力していること、を交流できる場があるとよい。他学部の学生と交流する機会といえば、サークルや教職課程などと限定されていた。そのため、交流の場を広げ、お互いに刺激を受け切磋琢磨できる環境作りが必要であると感じた。
27	教授ではない、ネイティブ講師について、授業後の対応がそつけない方が多い印象でした。そのため、そうした講師の賃金をあげ、授業後のフォローアップも講師の仕事として理解して頂くのが良いと思います。
59	環境は申し分ないかと思われます。
59	ただ、コロナ禍ということもあり教師と生徒や生徒同士の距離感が遠かったため、学ぶということに情や楽しさを感じる要素がありませんでした。人間関係としての繋がりを少しでも感じられる要素があると、学習カリキュラムに対して前のめりになれるのではないのでしょうか。
61	大学生の今を楽しめる教育ではなく、社会人になるための準備となるような教養をもっとたくさんするべき
66	1,2 年生の間は所属学部に関わらずもっと色々な教養科目を自由に受けられるとその後の選択肢が広がると思います。 留学に対するサポートは沢山ありましたが、外国語学部が占有しているような雰囲気があり、他学部の生徒からすると少し居心地が良くないと感じた。

22. 本学の「社会的評価」を更に向上させるためにはどのような取組をしたらよいか、ご意見等ございましたらご入力ください。【300 文字以内】

(回答件数：9 件)

回答番号	ご意見等
5	21 と同様です。
16	・パブリックな場への積極的な参画 すでに学生自治会によるゴミ拾い活動や区役所と連帯した熱田ブランド創生に注力しているところ、現職において国立大学の学生による意見交換会や職場参観を受け入れた経験から、より深い部分で公組織に参画することで、広く認められる存在感と社会的評価の確立に加え、学生のパブリックな視点の涵養につながると考える。
27	成果を上げている卒業生に協力してもらい、大学のアピールをするのが良いと思います。
30	自らの強みを教育の過程で発見し、社会へどのような形で還元できるかを考え、それを実用的な取り組みの中で少しずつ成功体験として積み重ねていけるカリキュラムがあるといいのではないかと思います。
41	経営上、難しいことは重々承知ですが、学生のレベルの向上させる以外ないかと思います。
43	他大学と協力して研究を行ったり、学会などに参加する機会を大学側が積極的に設けることで少しずつ結果を残していくことができるのではないかと思います。学術的な結果を残したり、発信していくことが大切だと思う。イメージは近畿大学。
59	学歴コンプレックスを抱いていました。 社会人になっても学歴を見られる際にも、自信を持って大学名は言えませんが偏差値が上がれば自ずと社会的評価も上がるのではないのでしょうか。
61	私が当日学生だったころの CM は外国語学部がメインというイメージが強かったが、現代社会学部が 1 番ニーズがあると感じるので、フォーカスシフトした方が良いと感じた。地域密着型は今後も需要があるし、都市養蜂という珍しいこともしているので、その辺を宣伝すべきだと思う。
66	偏差値で見るとどうしてもあまり学力は高くないというイメージを持たれると思います。そのため力を入れているであろう国際交流の点などにもっと力を入れるとそういった専門性が評価されると思います。